

感染防げ 新製品続々

県第2庁舎 県内企業が展示会

県内企業が新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために開発した製品や試作品を集めた展示会が、県第2庁舎1階で開かれている。救急搬送時などに患者の飛沫が拡散しないようストレッチャに取り付けるカバーや、消毒液をボトルに触れることなく出せる設置スタンドなどが並ぶ。来月23日まで。

県の主催。医療物資の安定供給に向けた取り組みを知ってもらおうと企画した。県は「ものづくりTeam Akita」に登録した47社から11社が出品した。



患者の飛沫拡散を防ぐカバーの設置を
実演するフルヤモールドの古谷常務

「ita」に登録した47社から11社が出品した。プラスチック成形・金型製作のフルヤモールド（大仙市角間川町）は、患者を搬送する際に感染を防ぐ「Protect+A（プロテクトプラスエー）飛沫防止カバー」を展示。折り畳み式のフレームに使い捨てのビニールを張る



JUKI産機テクノロジーが開発した足踏み式消毒液スタンド

構造で、患者の上身を覆うように置いて使う。11月末の完成、販売を目指す。軽く持ち運びしやすいのが特徴。医療機関での使用を想定している。医療分野のものづくりは初めてで、県から紹介された臨床工学技士にアドバイスを受けた。同社の古谷美幸常務（44）は「頑張っている医療従事者の助けになるといい」と語る。

産業用機械製造のJUKI産機テクノロジー（横手市増田町）は、「足踏み式消毒液スタンド」を開発した。スタンド下部のペダルを踏むと、

上部に設置したボトルから消毒液が出る仕組み。同社営業部の石川雅一郎長（54）は「消毒液の容器を触ることに抵抗がある人もスムーズに消毒できる」と話す。

1台3万9200円（税別）。10月中に発売する予定。大仙市土川の板金加工工場を部品を製造し、横手市増田町の本社工場で組み立てる。月

産200台が可能で、医療福祉施設や自治体、飲食店などに売り込むという。

このほか、秋田杉や発光ダイオード（LED）ライトを使った間仕切りや、ウイルスが外部に漏れにくいように工夫した簡易陰圧室、医療用ガウン、フェースシールドなどを展示している。

りTeam Akitaの登録企業からフェースシールド約4万5千個と、医療用ガウン約8万3千枚を購入。先月から18の県内医療機関に供給を始めた。今後も新製品の開発や販路拡大を支援していく。

展示は平日午前9時～午後4時。
（吉田優花）



コシヤマ（能代市）と丸松銘木店（同）が共同開発した秋田杉製の間仕切り



「ものづくりTeam Akita」の登録企業が製造した医療製品が並ぶ展示会場